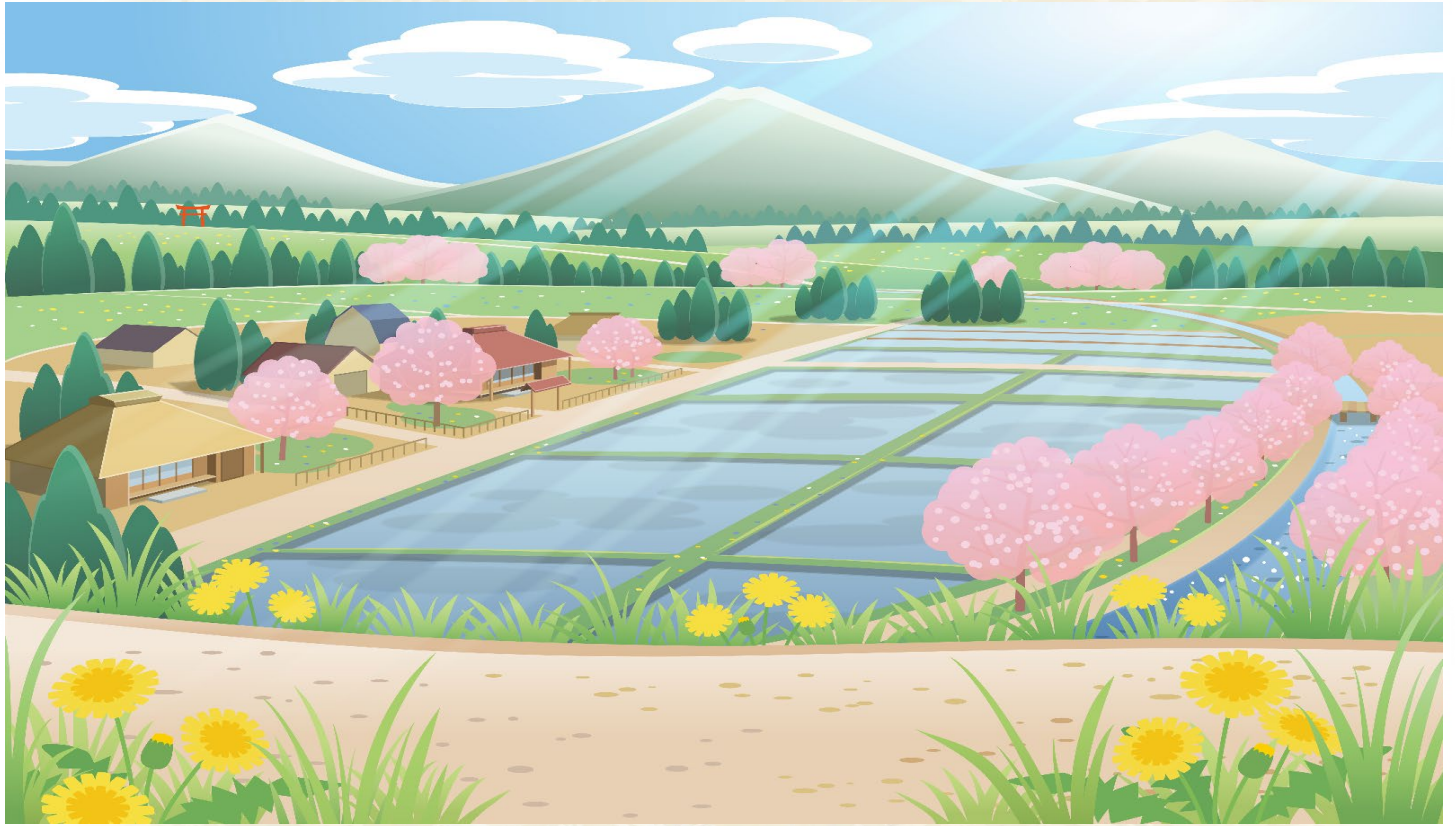


三重県神社庁「季節たより」



野に芽吹く春のしるし

草木が芽吹き、生命の息吹を感じる季節になりましたが、みなさまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、春といえば桜のイメージですが、ふと足元に目をやると、道端の野草も私たちに春の訪れを教えてくれます。タンポポやシロツメクサが咲き誇る中、やわらかな香りを運んでくれるのがヨモギです。ヨモギはその香りのよさから、桃の節供や端午の節供で草餅として供されるなど、春の風物詩として親しまれてきました。

古くから日本の暮らしに寄り添ってきたヨモギ、その語源は、「よく燃える草」や「よく萌え出る草」など、諸説ありますが、いずれも力強く芽吹くヨモギのエネルギーや逞しさを表しているのでしょう。

また、その香りは邪気を祓うとされ、『万葉集』には五月の「端午の節会」に菖蒲とともにヨモギをかざら獲（髪飾り）として用いた情景が詠まれています。平安時代の宮中では薬玉として飾られており、江戸時代には端午の節供の前夜に菖蒲とともに軒下に葺いて邪気を祓うしきたりもありました。端午の節供は元来、厄を祓い身を清める日という意味もあつたことから、邪気を祓う力をもつヨモギは重要視され、ヨモギを用いた草餅は端午の行事食として定着してゆきます。

足元に芽吹く野草に季節のささやきを聞き取った、先人たちの豊かな感性。その繊細な眼差しを大切に、移ろう日々を慈しみ、丁寧に過ごしたいものです。清らかな風が吹く境内で、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



節供について

本来、節供とは宮中で一年間の節目の日に天皇に供された食事を指した言葉で、後にこの晴れの食事を供す日を節供と呼ぶようになりました。一月七日の「人日」、三月三日の「上巳」、五月五日の「端午」、七月七日の「七夕」、九月九日の「重陽」の五つを「五節供」といいます。平安時代には宮中行事として定着し、上流階級の間でお祝いがされていましたが、徐々に庶民にも広まり、江戸時代の初めころには季節の祝日となりました。現在は「節句」とも書きます。



氏神社について

氏神社とは、居住する地域をお守り下さる氏神様をお祭りする神社の事をいいます。また、その周辺の一定地域に居住する人を氏子といいます。

神社によっては、由緒や地勢的な問題等で氏子を持たない場合もあり、崇敬会などが組織されます。一方で個人の特別な信仰等により崇敬される神社を崇敬神社といえます。

神社の豆知識

大祓

大祓は、常に清らかな気持ちで日々の生活を過ごすために自らの心身の穢れ、災厄の原因となる諸々の罪や過ちを祓い清める日本の年中行事の一つです。宮中においては古くから行われてきており、各神社で年中行事として普及したのは中世以降といわれています。年に二度行われる大祓のうち、六月に行われるものを夏越の大祓ともいい、人形や茅の輪などを用いて半年間の穢れを祓い、無病息災を祈ります。十二月に行われる大祓は、年越しの大祓とも呼ばれ、新たな年を迎えるにあたり心身を清めるお祓いです。



三重県神社庁のSNS
もどうぞご覧ください



三重県神社庁
Instagram



三重県神社庁
YouTube



神社本庁ホームページ



楽しく学べる神社のページ
「お宮キッズ」

神社本庁のホームページです

三重県神社庁 ホームページ



三重県内各神社では、家内安全・商売繁盛
初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願
交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願
厄祓い・病氣平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車
清祓など様々なご祈願を受付けています。
いつもより神さまに近い場所ので、願意を届
けてみてはいかがでしょう。か。
ご祈願についてのお問合せは、
三重県内の各神社まで
お願いいたします。

